

すべての子どもが輝く学校を目指して

～ 曾於市ではじまる〈学びの共同体〉理念に基づく学校づくり ～

新型コロナウイルスの流行以来「学校に通うこと」の意義が問われることが増えました。そんな今だからこそ、子ども達が心から通いたいと思える学校でなければならないと考えています。その中心に据えるのは、やはり「授業」です。教師が一方向的に「教える」のではなく「仲間と学び合うことで、こんな難しいことができるようになった」「誰かの力になれる」「困ったときは助けてくれる仲間がいる」と実感する授業を増やしていくことで、毎朝笑顔で「行ってきま～す！」と登校できる学校づくりをめざしていきます。そのために、本市の学校では「学びの共同体」という考えを授業に取り入れていきます。今回は「学びの共同体」の考えを基にした大隅中学校の公開授業・講演会の様子を紹介します。

「学びの共同体」

- 佐藤学氏によって提唱された「すべての子どもの学びの権利を保障し、その学びの質を高める」という考えです。
- 授業づくりに関する主な特徴
 - ・ 子ども同士の「学び合い」を中心に、自分たちの力で分かったと思える「子どもが主役」となる授業。
 - ・ 子どもが友達と協力しなければ解けないような「ジャンプの課題」を設定した授業。

〔提唱者〕 佐藤 学 氏
 (東京大学名誉教授・北京師範大学客員教授)

- ・ 1951年広島県生まれ 教育学博士(東京大学)
- ・ 学びの哲学にもとづき「学びの共同体」の学校改革を提唱・推進。
- ・ 東京大学大学院教育学研究科教授・同研究科長・学部長、学習院大学教授を経て2021年より現職。
- ・ アジア出版大賞(Asian Publishing Award)大賞受賞。多くの著書が翻訳され、世界の教育界から注目される研究者。



市学力向上研究指定校 大隅中学校「公開授業・講演会」(令和4年10月7日)

市内全校の校長先生や教育研究の中心となる先生や、県内各地で「学びの共同体」に取り組んでいる先生、九州各県の教育研究者の皆さんなど、多くの方が参加。提唱者の佐藤学氏から直接その理念に触れ「これから子ども達に必要な学びの形は何か」を考えを深め合う、本市の教育における一つのターニングポイントとなりました。

1. 公開授業

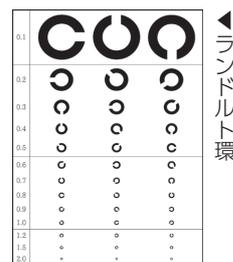
授業者 和田 浩一 教諭 / 教科 数学科 / 学年 中学1年生 / 単元 「比例・反比例」

〈学習課題〉

先生は視力検査で0.1の大きなランドルト環(右図)で判別できませんでした。視力0.05の人を計測するランドルト環を作るためには、どうすればよい？

〈ジャンプの課題〉 視力3.0を計測する方法は？

- ・ 簡単には解けないハードルの高い課題を「ジャンプの課題」として、あえて子ども達に任せる授業。
- ・ 元々数学の得意な子どももそうでない子ども、一人で分からないときは仲間に声を掛け合い、考えを伝え合い、協力しながら課題に挑戦することを楽しんでいました。
- ・ チャイムが鳴った瞬間「え、もう終わり！」という声が飛び出しました。まだ話し足りなかったのか、授業が終わっても意見を述べ合う子ども。翌日、翌週に「先生できた！」と報告に来る子どもが続出。家でも「学び」が続いていたようです。



ランドルト環



▲授業中の様子

2. 授業研究

子ども達の熱気に触発され「すべての子どもが主人公となる学び」とは何か、先生方の授業づくりの根幹に迫る熱い学び合いが繰り広げられました。

3. 講演会

最後に佐藤学氏にこの日の総括も含め「ポストコロナ時代の学校改革と学びのイノベーション」と題し「授業を、学校を、子どもを中心に变える」とはどういうことか、聴講者の心に変革のきっかけを与える講演会を行っていただきました。



▲講演会の様子